似顔絵が上手く描けると，かえって名前を憶えないか？

○斎川　加奈恵[1]　仁平　義明
（白鷗大学教育学部）

key words：顔の記憶，よくある名前，似顔絵

問題・目的

“佐藤由佳”のような“よくある名前”の場合，顔はわかるけれど名前が浮かばないことがある．理由の一つは，同じ名前がいくつもの顔があること，つまり顔と名前の対応が流動的なことにある．本研究では，顔と “よくある名前”の対連合学習成績に，「似顔絵を描く」，「顔の特徴を言葉で表現する」などの，顔を記憶するための方法がどう影響するか検討した．

方法

【実験デザイン】「顔」写真とその下部に書かれた“よくある名前”を連合させて記憶する，次の３つの条件群の比較：

①似顔絵を描くことで顔の特徴を把握する。

②顔の特徴を言葉で記述しながら記憶する。

③顔をじーっとよく観察して記憶する．

【対象者】大学生女性 30 名。平均 21.37 歳（*SD*1.299）。

【顔写真】A 大学以外の女性大学生 6 人と ATR 顔表情データベースのニュートラル顔 4 人分合計 10 人の女性の顔．

【よくある氏・名の選択】　A 大学の女子学生の氏・名の「名」部分のみ 2,000 人分をランダムに抽出．仮名表記にしたときの頻度が 1 位から 10 位までの名前を選択（ただし，最初の音節同士が同じ名前，たとえば「ゆき」と「ゆか」，あるいは最後の音節同士が同じ名前は，後の順位のものを除外）．姓は「名字検索 NO.1/名字由来 net」（http:// myoji-yurai.net/ prefectureRanking.htm, 2014）から A 大学所在地の栃木県の頻度上位 10 位の姓を，名と同様なかたちで選択した．顔写真に付加する“よくある”氏・名は，これらの姓・名をランダムに組み合わせて作成した：＜例＞ 「すずき・りさ」「きくち・もえ」「いしかわ・ゆき」「さとう・ちひろ」．

【手続き】　10 人分の女性の顔写真と“よくある”氏・名の組み合わせ刺激．　5 人分ずつの 2 種類の刺激グループを作成．①～③の 3 条件群の対象者ごとに，5 人分の顔と氏名をそれぞれ 1 分 30 秒間に①～③の条件のもとに連合して記憶するように求め、10 分の雑誌読み，課題挿入後，順次顔写真を提示，再生．

結果および考察

1）似顔絵を描くと「氏&名」の正確な記憶をしない

「氏&名ともに正しく再生された数」（5 刺激中）については，分散分析の結果，①～③の記憶方法の有意な主効果がみられた（$p<.05$）。多重比較（Scheffe 法）では，「似顔絵を描く」条件は「じーっとよく観察して記憶する」条件に比べて有意に記憶成績が低かった（$p<.05$）．また，不完全な記憶である**「氏のみが正しく再生された数」**にも，記憶方法の有意な主効果がみられ（$p<.05$），多重比較では，「氏&名ともに正しく再生された数」とは逆に，「似顔絵を描く」方法（0.8）＞「顔の特徴を言葉で記述する」方法（0.2）＞「じっーとよく観察して記憶する」方法（0）の順で減少した（差はそれぞれ $p<.05$）．

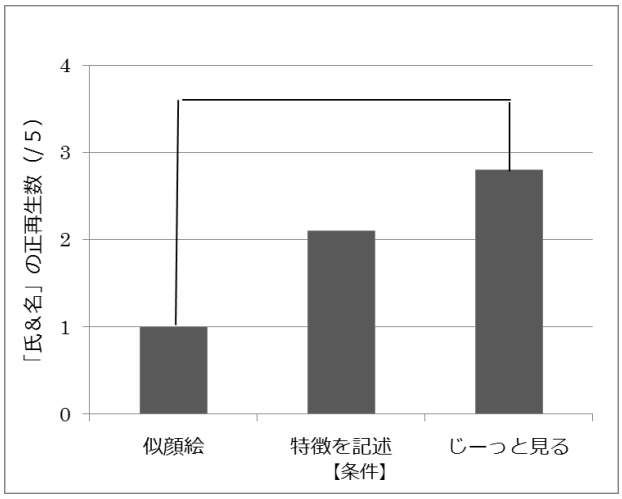

図 1.　「氏&名」ともに正しく再生された数

図 2　同じ顔の“下手な似顔絵”と“上手な似顔絵”の例
（　上手さの評定値平均：左　1.5　　右 7.0　）

この結果からは，似顔絵を描くことは，他の条件に比べ名前情報処理のための資源配分を減少させることになり，名前の記憶成績を低下させると考えられる．

2）似顔絵が上手いほど氏名の記憶成績は悪い

似顔絵を描くことが氏名の記憶を阻害することを別な面から確認するために，似顔絵の上手さと氏名の記憶成績の関係を，似顔絵条件群の 10 人の対象者について分析した．

似顔絵の上手さは，２人の評定者が 7 段階の評定を独立に行い，２人の平均評定値を「上手さ」の指標とした．似顔絵の「上手さ」と記憶成績について相関を求めた結果，最後まで正しい氏名を想起できなかった刺激数（「無答数」）と上手さには，中程度の負の相関が見られた（$r=-.538$,　$p=.109$）．標本数が少ないために相関は有意にはならなかったが，この結果は，似顔絵を描くことの効果をもう一つの側面から明らかにしているといえるだろう．

【1】現在，五月女総合プロダクト